かけはし

会報76号　発行:特定非営利活動法人全国LD親の会　発行人:東條 裕志
事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

支援の継続的推進に向けて

NPO法人全国LD親の会
理事長　東條裕志

平成25年6月8日(土)に開催された特定非営利活動法人全国LD親の会第6回総会と、その後に行われた第18回理事会において、内藤孝子前理事長のあとをうけ、理事長に就任いたしました。

役員の方々とともに、LD等の発達障害のある人が、個性的で自立した豊かな社会生活をおくることができるよう、努力していく所存です。なにぶん、非力ですので、各親の会のみなさまのお力を今まで以上にお貸しくださるようお願い致します。

弊会は、39都道府県に正会員団体47団体、約3,200名(2013.6現在)の会員が加入しています。今年の4月から大分県発達支援親の会「じゃんぷ」が正会員として加入しました。親の会によって、子どもの構成等が異なり、会員のニーズも違ってきているとは思いますが、情報交換を密にし、地域で支援の格差が広がらないようにしたいと思います。その方策として、今年度は主に下記の事業に取組む予定です。

① 発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化事業(日本財団助成事業)
② 特別支援教育支援員養成事業(日本財団助成事業)
③ LD等の発達障害親の会の設立を支援
(福島県、高知県)(日本理学療法士会助成事業)
④ 発達障害のある人のピア活動支援事業
(高津成和会助成事業)

国は「障害者の権利に関する条約」への批准に向けて、着々と法整備を進めています。権利の実現にむけて、「合理的配慮」という概念が示されています。合理的配慮とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と条約の中で定義されており、教育、労働等の各分野での討議が始まっています。

また、平成25年6月19日に、多くの障害者団体が長年にわたり、成立を求めてきた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が公布されました。この法律には、差別的取り扱いの禁止、合理的配慮の不提供の禁止が示されています。

このような国の流れに遅れることのないよう私たちも「LDなどの発達障害のある人の人権が守られ、生き生きと暮らすことのできる社会の実現を求めて」しっかりと活動を進めていきましょう。

特定非営利活動法人全国LD親の会役員

理事長　:東條裕志
副理事長:井上育世、多久島睦美
理事　:梅野真澄、内藤孝子
評議員　:入船裕治、奥野由美、木村仁美、小林亜希子
斗内沢邦男、内藤聖子、松井典彦
監事　:丹藤登紀子、吉田礼子

特定非営利活動法人全国LD親の会　第6回　総会報告

日時:平成25年6月8日(土)　12:45～14:15
場所:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)、1Fパフォーマンス・スペース
総会員数45団体中、代表者出席24団体、委任状出席20団体の計44団体の参加の中、第1号議案～第3号議案のすべての議案が満場一致をもって異議なく承認されました。

【審議事項】　第1号議案　平成24年度事業報告
第2号議案　平成24年度決算報告および監査報告
第3号議案　平成25年度役員選任(案)

研修会報告

日　時:2013年6月8日（土）　15:00～17:00
会　場:ドーンセンター1F　パフォーマンススペース
テーマ:　トークセッション
「誰もが自己表現できる社会を目指して」
講師:　齊藤　真拓さん（鳥取大学地域学部2年生）
近藤　武雄氏（東京大学先端科学技術センター）
（平成25年度財団法人高津成和会助成金事業）
参加者:　96　名（高校生4名）

東大先端研の近藤先生のDO-IT Japanの紹介と当事者である齊藤さんのトークセッションが行われました。その中で、当事者の経験をもとに「セルフアドボガシー」の基本的な考えを大変わかりやすく学ぶことが出来ました。近藤先生は、「セルフアドボガシー（自己の権利擁護）」の理念が重要とお話しされました。それは、当事者本人が社会的障壁の軽減に向けて、自らチャレンジしていこうとする自己決定の意識が大切であるということです。障がいがある場合に、学ぶための合理的配慮が用意されることが当然の権利なのだということを、とてもわかりやすく説得力をもって示されました。

齊藤さんは「小論文が紙に筆記してのものであったら、ぼくは間違いなく入試に落ちていた。」と言います。DO-IT Japanに出会い、大学入試でパソコン使用を認められ、彼は、現在、地域学を学んでいます。「将来は学者になりたいと考えています。」と、とても自信に満ちた一言が印象的でした。

今回の研修会は、「パソコン等のITを使うことで読み書きの困難を軽減することが出来る時代になった。」ということを強く印象付けました。そして、「ようやくここまで来たな・・。」と感慨深いものがありました。参加された多くの方からも、タイムリーな企画であり、内容もとても良かったと高い評価の声を聞きました。

特別支援教育がインクルーシブ教育へ進展するカギは、通常の学級における「合理的配慮」がどう展開されるかだと思います。課題は、子どもの状態が「合理的配慮」が必要な子どもなのかということを判断するための物差しと、合理的配慮を教室に持ち込むためのルール作りや予算の配分です。学校関係者の理解が広がらなければなかなか受け入れられない現実があります。親の会として多くの関係者に情報を伝え、積極的に提言していくことがとても重要だと思いました。また、「合理的配慮」を求めていく時には、多くの壁にぶつかるのだと思われます。私たち親はその壁にチャレンジしようとする子ども達をしっかりと支えていくことが必要です。「アドボガシー（権利擁護）」を意識しながら、親の会として地域の中でしっかりと取り組んでいきたいと気持ちを新たにしたところです。

（松井）

青年の交流会報告

日　時：2013年6月8日(土)　13:00～20:00
テーマ:「落語家さんと行く、なにわ探検クルーズ」
プログラム:13:00　～　17:30　　探検クルーズ
（平成25年度財団法人高津成和会助成金事業）
参加者:青年26名　ボランティア7名　(NPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク)　親の会　会員3名

今年の青年の交流会は青年たちのセルフヘルプ活動として、本人たちが企画・運営に参画しました。大阪（おたふく会）の青年たちを中心に4回の準備会を行い、本番を迎えました。当日は全国各地から大阪のドーンセンターに集合。オリエンテーション（自己紹介・スケジュール確認・注意事項の説明など）後、「なにわ探検クルーズ」に出発しました。90分のクルーズでは水の都大阪の文化や歴史の話を落語家の流調な語りで聞きながら、普段では見られない川から見る風景を楽しみました。船を貸し切ったこともあり、あちこちから笑いが起こる楽しい時になりました。下船後、落語家さんと記念撮影を行い解散。引き続き、希望者で、食事会を行いました。準備段階から関わって下さったボランティアさんや親の会のスタッフの方々のお力添えもあり、充実したピア活動ができました。　（内藤）

＜参加者の感想＞

・今まで本人たちが企画立案に参加することはあまりなかったと聞いたので、おたふく会の青年や親の皆さんと企画会議に参加できたこと、交流会をボランティアの方にサポートしていただきながら皆で成功させることができたこと、皆さんの素敵な交流に、少しでも役に立つことができたことを嬉しく思います。

・最初の話し合いでは自分を振り返ることができて大変よかった。また、後半のクルーズは団体旅行気分で楽しめた。機会があれば再び参加したいと思う。

集まれクリエーター　展示会報告

日　時:2013年6月8日（土）14:30～18:00
会　場:ドーンセンター1F　パフォーマンススペース
（平成25年度財団法人高津成和会助成金事業）

本人たちの書道・絵画・陶芸などの創作作品を募り展示会を開催しました。各地の親の会から31点、ホームページ掲載作品から8点を展示。約100名の方々が、展示作品を鑑賞してくださいました。絵画、貼り絵、CG、イラスト、写真、工作など、様々な作品は色使いも美しく、会場がとても明るい雰囲気になりました。出展者からは「家族以外の人にも見ていただける機会を持てて良かった」「少し恥ずかしいけれど、うれしかった」などの感想がよせられました。また、作品を鑑賞してくださった方々からは、作品の良さを認める意見が多数よせられ、本人たちの自信につながったと思います。　（小林）

第12回 全国LD親の会公開フォーラム
特別支援教育の推進
～一人一人の学びを保障する支援の在り方～
(日本財団 助成事業)

日　時:2013年6月9日(日) 10:15 ～17:30
会　場:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター) 7F ホール
参加人数 : 329名

プログラム

10:15　開演挨拶
10:20-11:30　基調講演
「読み書き障害のある子どもの
基礎理解と関わり方について」
竹田 契一　(大阪教育大学名誉教授)
〔西岡 有香 (大阪医科大学・LDセンター、
言語聴覚士、特別支援教育士SV)〕
11:30-12:40　特別講演
「発達障害児・者の学習・生活・就労を
テクノロジーにより支援する」
近藤 武夫
(東京大学先端科学技術研究センター准教授)
13:40-15:20 行政解説
「特別支援教育・発達障害支援行政の
最新情報と目指すべき方向性」
文部科学省　大山 真未
(特別支援教育課 課長)
厚生労働省　阿萬 哲也
(障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 室長)
15:30-17:30　シンポジウム
「すべての子どもの学びを保障するために」
＜話題提供＞
教育行政の立場から
今川 惠美子(池田市立石橋小学校)
教員の立場から
山田 充　(堺市立日置荘小学校)
保護者の立場から
井上 育世　(NPO法人全国LD親の会)
＜指定討論＞
近藤 武夫(東京大学先端科学技術研究センター)
＜司会＞ 内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)

基調講演は大阪教育大学名誉教授の竹田契一氏の予定であったが、直前にご登壇が叶わなくなり、竹田氏からご紹介いただいた大阪医科大学・LD センターの西岡有香氏に、竹田氏の原稿をもとにご講演いただくという形になった。「読み書き障害のある子どもの基礎理解と関わり方について」というテーマで、読み書き障害を抱えている子どもへの支援の必要性と具体的な支援の方法についてお話しいただいた。

特別講演では、東京大学先端科学技術研究センター准教授の近藤武夫氏より「発達障害児・者の学習・生活・就労をテクノロジーにより支援する」と題して、学びについてのアクセシビリティ確保の重要性、テクノロジーの利用によるアクセシビリティ確保の具体的状況、学びの延長線にある就労場面も含めたテクノロジーの利用と合理的配慮などについて、ご講演いただいた。

午後からは、「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と目指すべき方向性」をテーマに、文部科学省特別支援教育課課長の大山真未氏、厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室室長の阿萬哲也氏より行政解説をいただき、引き続き、弊会の東條裕志からの質問にお答えいただいた。

シンポジウムでは、弊会の内藤孝子の司会により、「すべての子どもの学びを保障するために」をテーマに、昨年度まで池田市教育委員会教育部にいらした今川惠美子氏には、教育行政の立場から「ともに学び、ともに育つ」教育について、堺市立日置荘小学校の山田充氏には、堺市での特別支援教育推進リーダー育成研修の取り組みについて、それぞれ話題提供をしていただいた。弊会の井上育世からは、弊会のサポートツール・データベース事業での取り組みについて話題提供し、引き続き、東京大学先端科学技術研究センター准教授の近藤武夫氏を指定討論者として、権利擁護の観点を中心に、ユニバーサルデザインと合理的配慮、配慮内容に対する意見・異議・調整申立てできる仕組み、セルフアドボカシーについて話題を深めた。

「学びの保障」をキーワードに、支援・配慮の方法についての講演、行政解説、シンポジウムをおこない、一人一人の学びを保障する支援の在り方について、様々な角度から考えることができ、公開フォーラム後の6月19日に成立した障害者差別解消法の内容も踏まえ、内容の濃い有意義なフォーラムとすることができた。

参加者へのアンケートでも、

・将来に向けての明るい話題がたくさん聞けた。
・子ども自らが自分に合った学習方法を身につけていけるよう子どもとの情報共有も大切だと思った。
・合理的配慮が早く学校にも受け入れてもらえる社会になればと思う。
・テクノロジーについてまとまった話を聞くのは初めてで、具体的な支援を知ることができた。
・合理的配慮、そのための支援の質・量を高める必要性が伝わった。
・保護者の皆さんだけでなく、行政・教育の立場の者にも大変ためになる内容が盛り込まれており、今日的課題を多面的、包括的にとらえる機会になった。

といった感想を多くいただいた。　(井上)

会員の子どもの構成調査

正会員47団体中46団体分の集計

＜総括表＞

区分	人数					男女比	
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	36	19	55	1.8%	-1.8%	65.5%	34.5%
小学校	530	157	687	22.1%	-7.9%	77.1%	22.9%
中学校	446	117	563	18.1%	2.6%	79.2%	20.8%
高校相当	445	112	557	17.9%	-5.4%	79.9%	20.1%
高卒相当	999	252	1,251	40.2%	11.0%	79.9%	20.1%
合計	2,456	657	3,113	100.0%	1.5%	78.9%	21.1%

＜小学校＞

区分	男	女	計
小1	33	5	38
小2	49	16	65
小3	77	25	102
小4	108	29	137
小5	108	40	148
小6	155	42	197
計	530	157	687

＜中学校＞

区分	男	女	計
中1	152	39	191
中2	144	37	181
中3	147	37	184
その他	3	4	7
計	446	117	563

＜高校相当＞

区分	男	女	計
高1（高専1年）	127	42	169
高2（高専2年）	120	24	144
高3（高専3年）	108	24	132
単位制高校	77	21	98
その他	5	1	6
就労・在宅等	8	0	8
高校相当計	445	112	557

＜高校卒業相当以上＞

区分	男	女	計
大学・短大	142	24	166
高等専門学校4年～	1	0	1
専門学校	59	15	74
就労（一般）(週3日以上)	145	30	175
就労（障害枠）(週3日以上)	288	60	348
ﾊﾟｰﾄ（一般）(週2日まで)	15	5	20
ﾊﾟｰﾄ（障害枠）(週2日まで)	15	4	19
職業訓練校・委託訓練	11	3	14
就労移行支援	50	18	68
就労継続支援（A型・B型）	69	28	97
授産・作業所(旧体系)	19	5	24
その他（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ等）	26	7	33
在宅	99	36	135
不明	60	17	77
高校卒業相当計	999	252	1,251

学校種別・在籍状況

＜小学校＞

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	260	37.8%	-9.4%
普通級(通級利用有り)	150	21.8%	-1.3%
特別支援学級	237	34.5%	-9.2%
特別支援学校	8	1.2%	0.0%
その他・不明	32	4.7%	-15.8%
計	687	100.0%	-7.9%

＜中学校＞

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	251	44.6%	-0.8%
普通級(通級利用有り)	50	8.9%	19.0%
特別支援学級	198	35.2%	2.1%
特別支援学校	18	3.2%	20.0%
フリースクール等	3	0.5%	-57.1%
その他	19	3.4%	46.2%
不明	24	4.3%	-4.0%
計	563	100.0%	2.6%

＜高校生の状況＞

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制		
普通科	59	15	1	103	5	13	17	9	1	19	0	52	294	52.8%
専門学科(商業・工業・農業等)	33	0	0	17	0	3	1	3	0	2	0	0	59	10.6%
総合学科	6	0	0	9	0	1	3	1	0	2	0	2	24	4.3%
高等専門学校(1～3年)	1			1									2	0.4%
高等特別支援学校・特別支援学校高等部	119	0	0	1	0	0							120	21.5%
高等専修学校	2	0	0	27	0	0						1	30	5.4%
専門学校	0	0	0	2	0	0							2	0.4%
フリースクール													3	0.5%
その他													9	1.6%
不明													14	2.5%
計	220	15	1	160	5	17	21	13	1	23	0	55	557	100.0%

	人数	比率
国・公立	271	51.0%
私立	260	49.0%

	人数	比率
単位制以外	418	78.7%
単位制	113	21.3%

	人数	比率
全日制	424	79.8%
定時制	33	6.2%
通信制	74	13.9%

祝賀会報告　～「アジア太平洋障害者の十年」最終年記念障害者関係功労者　内閣総理大臣表彰～

日　時:2012年6月8日(日)18:00～19:30
会　場:ドーンセンター内「レストラン　ゆいま～る」

総会終了後、「アジア太平洋障害者の十年(2003～2012年)　最終年記念障害者関係功労者　内閣総理大臣表彰」祝賀会を開催し、全国各地24の親の会、計61名の仲間が集いました。また来賓として、大阪府豊能町教育長石塚謙二先生(前・文部科学省　特別支援教育調査官)、堺市立日置荘小学校　山田充先生、東京大学先端科学技術研究センター　近藤武夫先生、鳥取大学　齊藤真拓さん、山岡修顧問がご出席くださいました。

初めに内藤理事長が挨拶の中で表彰の経緯等について話され、次いでご来賓の先生方からご祝辞を頂戴しました。乾杯に続き恒例の各会メンバー紹介も行いました。

全国LD親の会のこれまでの活動が認められ、栄えある「アジア太平洋障害者の十年(2003～2012　年)最終年記念の障害者関係功労者　内閣総理大臣表彰」を受けたことに、これまで長くご支援くださった先生方、ご尽力いただいた諸先輩への感謝の気持ちで胸が熱くなりました。「LDなんて聞いたこともない」と言われた時代から地道な活動を続け、今では発達障害や親の会が広く認知されるようになりました。法改正も進みつつあり、私たちの声が行政に届くようにもなりました。祝宴では、そうしたこれまでの長い道のりを感慨深く振り返りながら、全国の仲間と語り合いました。

この表彰を励みとして、今後も全国の仲間と連携を深め、『子ども達のために』という原点に立ち返り、LD等発達障害の子ども達・青年達が生き生きと暮らせるよう、気持ちも新たに活動していくことを誓い、お開きとなりました。

(多久島)

一般社団法人 日本LD学会 第22回大会

日 時 ： 2013年10月12日(土)～14日(月・祝日)
場 所 ： パシフィコ横浜(横浜国際会議場)
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
【大会テーマ】 多様なニーズへの挑戦
ーたて糸とよこ糸で織りなす新たな教育の創造ー

●全国LD親の会企画シンポジウム

【テーマ】 学習への支援と教材の活用
～一人一人の学びを保障する支援の在り方について～
話題提供:
近藤 武夫(東京大学先端科学技術研究センター)
漆澤 恭子(植草学園短期大学)
井上 育世(NPO法人全国LD親の会)
指定討論: 丹羽 登(文部科学省特別支援教育課)
司　　会: 内藤 孝子(NPO法人全国LD親の会)

＜企画趣旨＞

インクルーシブ教育システム構築においては、一人一人の子どもが学習活動に参加している実感、達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけることが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要です。通常の学級では、全体に効果的な指導とともに、特別のニーズのある子どもへの指導や授業の内容と方法の工夫等の、学習への支援が求められています。

今回のシンポジウムでは、①テクノロジーを活用した学習の支援について②特別支援教育の視点にたった学級の環境作りについて③一人一人の子どもの特性に応じた支援の取り組みについて話題提供いただき、子どもたちの学びを保障するための支援の在り方について、討論を深めたいと思っています。

●親の会ポスター展示

LD学会大会での親の会ポスター展示は、会報とはひとあじ違う情報発信ツールです。各会の活動紹介を模造紙1枚程度(90cm×180cm)の大きさで自由に作成してください。 全国LD親の会のホームページにポスター作成のコツや展示の感想が掲載されていますので、参考にしてください。

エントリーされる会は、事前に申込みをお願いします。ポスターは事前送付かまたは会場に直接ご持参ください。送付先等詳細は、同封のチラシをご覧ください。

●懇親会のお知らせ

親の会の懇親会を10月13日に計画しています。全国の親の会の皆様と友好を深める楽しいひと時となりますようご参加をお待ちしています。参加希望の方は、親の会ごとに、お申込みください。申込み先等詳細は同封のチラシをご覧ください。

「障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律案」、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が成立！！

障害者の権利に関する条約の批准にむけて、着々と国内法整備が進んでいます。

◎「障害者の雇用の促進等に関する法律の一部を改正する法律案」(2013年6月19日公布)
・雇用の分野における障害者に対する差別の禁止及び障害者が職場で働くに当たっての支障を改善するための措置(合理的配慮の提供義務)(2016年4月施行)
・障害者の雇用に関する状況に鑑み、精神障害者を法定雇用率の算定基礎に加えること(2018年4月施行)
・障害者雇用促進法における精神障害に発達障害が含まれることや、「障害」にあらゆる障害が含まれることを明確化すること (公布日)

◎「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)
(2013年6月19日公布　2016年4月施行　施行後3年を目途に必要な見直し検討)
障害者基本法4条の差別禁止規定を具体化する新規立法として位置づけられています。

・差別的取り扱いの禁止、合理的配慮の不提供の禁止
・差別を解消するための支援措置
紛争解決・相談、地域における連携、啓発活動、情報収集等

特別支援教育支援員養成事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

特別支援教育支援員は「幼稚園、小・中学校、高等学校において、校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、担任教師等と連携のうえ、日常生活上の介助(食事、排泄、教室の移動補助等)、発達障害等の幼児児童生徒に対する学習支援、児童生徒の健康・安全確保、周囲の児童生徒の障害理解促進を行う」とされています。平成25年度は、特別支援教育支援員の地方財政措置額は約514億円で、全国の公立幼稚園、小・中学校及び高等学校において、特別支援教育支援員を約45000人配置するための必要経費が措置されています。しかし、資格要件・資質、養成や研修の実施については、実施主体である市町村に委ねられており、そのバラツキや学校現場での混乱等も指摘されています。今後、特別支援教育を推進していくためには、特別支援教育を支える支援員の育成・活用は急務です。

弊会では、文部科学省から委託をうけ3年間研究した「特別支援教育支援員・ボランティア支援員養成事業」の成果をふまえ、昨年度より、日本財団の助成を受け、発達障害等の障害のある幼児児童生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある幼児児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを目的とし、「特別支援教育支援養成事業」を実施しています。具体的には、広く日本各地で特別支援教育を支える人材の育成・活用を図ることを目的に、特別支援教育支援員養成講座(支援員コース、学習支援員コース)、ボランティア支援員養成講座を各親の会からも協力いただき、各地で開催しています。さらに、全国のどの市町村においても、一定レベルの特別支援教育支援員養成講座を実施することができるように、汎用的に使えるテキストの作成に取り組んでいます。

◇◆◇◆◇　2013年度事業内容　◇◆◇◆◇

Ⅰ　特別支援教育支援員養成講座の実施

一般社団法人日本LD学会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会のご協力を得て、特別支援教育士SVの有資格者の先生方を中心に講師をお願いしています。特別支援教育支援員、学習支援員、介助員だけでなく、学童保育・児童デイサービス等で発達障害児の支援を行っている方等に必要な知識や技能を織り込んだカリキュラムになっています。

(1)　特別支援教育支援員養成講座

今年度は、神戸市で特別支援教育支援員養成講座を開催します。

① コース:

・支援員コース　[講習:5日間　(21科目/30時間)]

・学習支援員コース

[講習:7日間　(27科目/41時間)]

② 日程:

[支援員コース・学習支援員コース共通]

第1日　平成25年　8月31日(土)　9:15～16:50
第2日　平成25年　9月　1日(日)　9:20～16:40
第3日　平成25年　9月21日(土)　9:20～16:40
第4日　平成25年　9月22日(日)　9:20～16:40
第5日　平成25年　10月19日(土)　9:20～16:50

[学習支援員コースのみ]

第6日　平成25年10月　20日(日)　9:20～15:40
第7日　平成25年11月16日(土)　9:20～16:50

③ 会場:

神戸市勤労会館　3F　講習室　308　(神戸市)

④ 定員:50名

支援員コース、学習支援員コース

⑤ 協力:兵庫県LD親の会「たつの子」

(2)　ボランティア支援員養成講座

今年度は、福岡市と東京都渋谷区でボランティア支援員養成講座を開催します。

ボランティア支援員養成講座では、学校等で有償・無償のボランティアとして、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある子どもの支援、保護者等に対する相談支援が行える者の養成を目指します。

【福岡会場】

① 日程:　第1日　平成26年1月11日(土)
　　第2日　平成26年1月12日(日)
② 会場:　ふくふくプラザ(福岡市市民福祉プラザ)
③ 定員:　50名(ボランティア支援員コース)
④ 協力:　福岡発達障がい者親の会「たけのこ」

【東京会場】

① 日程:　第1日　平成26年2月15日(土)
　　第2日　平成26年2月16日(日)
② 会場:　国立オリンピック青少年総合センター(渋谷区)
③ 定員:　50名(ボランティア支援員コース)

Ⅱ　特別支援教育支援員養成講座テキストの作成

一定レベルの特別支援教育支援員養成講座を実施することができるように、汎用的に使えるテキストの作成を2年計画で行っています。全部で21科目の予定です。

昨年度は、11科目を特別支援教育支援員養成講座テキスト(上巻)として発行し、今年度の講座で使用する予定です。本年度は、(下巻)10科目を作成予定です。

(内藤)

発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

「障害者の権利に関する条約」への批准に向けた国の取組みの中で、平成23年7月、障害者基本法改正案が可決されました。そして、平成24年7月には中央教育審議会の報告「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされました。

「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会あり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のために、特別支援教育の推進によって蓄積されてきたノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化を図るとともに、様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図って、発達障害を含め、障害のある子ども達の自立や社会参加を目指していかなければなりません。

2009年度から2011年度まで行った「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及事業」では、通級指導教室など個別対応の場で成果を上げているサポートツールを中心に、子どもがもつ困難や特性に合わせた教材・教具のデータベースを作り上げてきました。昨年度から取り組んでいる「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業は、国が掲げている「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」という流れに対応させて、当事者団体の視点でサポートツール・データベースを提供していくことが目的です。

本事業の要点は、下記2点です。

1. データベース事業では、「教材・教具は使い方こそが大切である」といった観点から、教材・教具の有効的な使い方を示した実証を示してきた。実証の多くは通級など個別や少人数での取り組みであるが、課題を進める上での説明や子どもへの指示の出し方といった部分こそが、実は重要であり、通常の学級での特別支援教育を進めていく上で大切な視点といえる。通級などでの教材教具の効果的な使い方が通常の学級でもユニバーサルデザインの視点を加えて展開できるようなデータベースを構築していく。
2. 教育分野でのICT活用と子どもの状態に応じた支援機器の充実を図っていくことで、通常の学級での取り組みも特別なプログラムではなく、「全員がわかる、参加できる授業作り」へとつながっていく。通常の学級で障害のある子も無い子も学びやすい機器の実証を加え、支援機器のユニバーサルデザイン化について整理していく。

以上の情報を整理し、ホームページで情報発信していきます。

発達障害児のためのサポートツール・データベースHP
http://www.jpald.net/research/

また、今年度も研修会を開催して、教材・教具のユニバーサルデザイン化した使い方を提唱し、インクルーシブ教育システム構築についての情報を提供していきます。

障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことができ、授業内容がわかり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごし、生きる力を身につけていくことへとつながってほしいと思っています。

◇◆◇◆◇　2013年度事業内容　◇◆◇◆◇

1. 第12回全国LD親の会公開フォーラム

「特別支援教育の推進～一人一人の学びを保障する支援の在り方～」

日時:2013年6月9日(日)

今年度の公開フォーラムは、「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業の内容をふまえ、プログラムを構成して、開催しました。(フォーラムの詳細報告は、p2をご覧ください)

2. 研修会の開催

全国LD親の会に加盟している親の会と共催で、サポートツール全国キャラバンをおこないます。親の会会員の子どもの事例を数件取り上げて、それぞれの特性に応じたアプローチの方法について学びます。

① サポートツール全国キャラバン2013 in 長野

日時:2013年12月1日(日)

会場:児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」多目的ホール

長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」と共催

② サポートツール全国キャラバン2013 in 静岡

日時:未定

会場:静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

静岡県LD等発達障がい児・者親の会「きんもくせい」と共催

3. 教材・教具の具体的な使い方についての会議開催

教材・教具の具体的な使い方とユニバーサルデザインとしての使い方について検討し、その内容をWeb上で発信していきます。

(井上)

親の会設立準備を進めています！　福島県　高知県（日本理学療法士協会助成金事業）

●福島県

全国LD親の会の空白県である福島県で、親の会設立の準備のための交流会を行いました。

日時:5月25日(土) 14:30～16:30

会場:福島市アクティブシニアセンター A・O・Z

プログラム:

1. 全国LD親の会の紹介
2. 「発達障害のある子どもの特性に添ったサポートと教材」の簡単な説明
3. 自己紹介と情報＆意見交換

昨年開催した講演会、交流会で親の会準備会に登録していただいた保護者1名と支援者3名、さらに未登録の保護者4名を加えて計8名での交流会となりました。

「子どもの特性に添ったサポートと教材」については保護者の関心が非常に高く、「学ぶことの保障」についての要望が大きいことを感じました。

情報＆意見交換では、支援の状況などについて保護者と支援者から活発な話が続きました。　(東條)

●高知県

高知県では、2013年4月14日(日)に保護者による子育てトーク＆座談会を開きました。

◎保護者による 子育てトーク ＆ 座談会

「ちょっと違う子育てが、おもしろい！」

日 時 : 2013年4月14日(日) 13:30～16:30

会 場 : 高知市東部健康福祉センター 2F 研修室

プログラム :

*保護者による子育てトーク (13:40-14:40)

「働いていくことを見据えた子育てについて」

*座談会 (14:40-15:40)「日頃の子育て、あれこれ」

*LD等発達障害親の会設立に向けて (15:40-16:30)

参加者は7名でしたが、参加者どうし多くのことを話し合えて、充実した座談会になりました。

連絡係の方も決まり、概ね月1回のペースで集まりを重ねていくことになりました。集まって話すだけでなく、自主勉強会なども開いていきたいと積極的に動き始めています。高知県LD等発達障害親の会設立に向けて具体的に動いていく中で、仲間を集め、子どもたちの支援者も増やしていきたいと思っています。

9月には、準備会登録の皆さんと一緒に、教育講演会を開催します。

教育講演会

「発達障害のある子どもたちへの理解と支援」

～子どもへの対応の基本を学ぼう～

日時 : 2013年9月29日(日)14:00～16:30

会場 : 高知県教育会館 高知城ホール2階 大会議室

講師 : 梅田 真理 氏

(国立特別支援教育総合研究所 教育情報部 発達障害教育情報センター総括研究員)

資料代 : 800円

(高知県LD等発達障害親の会登録者は、500円)

定員 : 100名

主催 : 特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催 : 高知県LD等発達障害親の会設立準備会

後援 : 高知県教育委員会・高知市教育委員会

(詳しくは、全国LD親の会ホームページをご覧ください)

特別支援教育について研究・研修・教育相談・情報普及活動に関っておられる梅田真理氏に、発達障害のある子どもへの対応について話していただき、保護者と教育現場の教員や支援機関の皆さま方とで、LD等の発達障害のある子どもへの支援について考えたいと思います。

(井上)

～各地の親の会の設立活動を支援しています～　(日本理学療法士協会助成金事業)

平成19年4月から法律にもとづく特別支援教育がスタートし、LD、ADHD、自閉症スペクトラム等の子ども達に対する教育的支援が始まりました。私達は、特別なニーズのある全ての子供たちが、一人一人のニーズに応じた教育的な支援を受けられるようになることを願っています。

また幅広く各種親の会や支援団体と、各々の独立性を保ちながら意見や情報を交換したいと考え、全国各地で親の会設立のお手伝いをしています。ＬＤ等発達障害のある子どもを持つ保護者や家族が地域において仲間を作り、支援関係者と連携していくことが、保護者や家族の孤立化を防ぎ、保護者支援・家族支援につながります。

九州ブロック便り

今年度から大分県発達支援親の会「じゃんぷ」が加わり、9つの会となりました。各会が親の会活動の転換点を迎える中、今後の方向性を 5 つの会よりお届けします。

「元気塾」(佐賀発達障がい児・者の会)親の会

平成25年、新生「元気塾」親の会が始動しました。

近年、会員の子ども達の年齢があがり、義務教育終了後の進路や就労についての情報交換が行われる反面、子どもたちを中心とした活動の停滞がひとつの課題となっていました。そんな中、アプローチの仕方を変えていこうという若手のお母さん達が立ち上がり、事務局を引き受けてくれました。まずはブログを使って発信をはじめました。
http://sagagenkijyuku.blog.bbiq.jp/blog/
同時に、佐賀大学の学生さんたちがボランティアをかってでて下さって(これも新事務局のお手柄です)子どもたちの活動のサポート体制も整いました。子どもたちが大学生のお兄さんお姉さんたちと楽しそうに過ごす場面も復活しています。保護者(お母さん)の交流会も定例会として確立しました。ブログを通じて問い合わせが何件もあり、新入会員も増えました。「誰にもわかってもらえない」とうつむいていた新会員さんが定例会の途中からは笑顔になっているのを見ると、セルフヘルプグループとしての意義の大きさを改めて実感します。

さて、平成 20 年夏佐賀駅前にコミュニティカフェPonteを開店したのは、情報発信の拠点として、また、疲れた心のよりどころとして機能していく事を目指したからでした。特別支援教育士の資格をもつ顧問が定期的に来店し、気軽に相談できる場所にしたいとも思いました。そこに「その場所」があり、何でもないときには思い出さなくてもつらいときにふと思い出して行くことができる。行けばきっと話を聞いてもらえる。相談に乗ってもらえる。誰かと出会える。そういう場所は、存在していること自体に意味があると考えました。大きな足跡を残したカフェPonteでしたが、飲食店を経営するということは思いの外(会の)体力が必要でした。主要メンバーがカフェの経営と事務の両方を担うにはいささか力及ばず、平成 22 年に惜しまれつつ閉店しました。

コミュニティカフェの試みもブログの発信も、私たちの会を必要としている人への大きく開いた門の役割をはたしています。私たち「元気塾」親の会は、これからも子ども達の笑顔を守ることを活動の第一の目的とし、理解と保護と支援のできる親の会を目指しています。

いつでも「私たちはここにいます。」

福岡発達障がい者親の会「たけのこ」

「たけのこ」では、平成 21 年に会員有志で発達障がい者の就労を支援する“NPO 法人ゆあしっぷ”を立ち上げました。この活動を行うきっかけは、「たけのこ」の就労研究サークルで実施した、30 時間の保護者向けビジネスマナー講座でした。企業で障がい者の人事採用を担当されていた講師は、「発達障がい者は、企業の戦力になります。でもこのままでは難しいです。あなたが社長だったら、今のままのお子さんを雇いますか？」と話されたのです。

そこで、自分達の手で子ども達の就労準備をすることにしました。同時に私達も教えるための研鑽を積み、現在は発達障がい者等を対象に、しつけレベルからのビジネスマナーとPC基礎や清掃実務の習得を目指す就労塾を運営しています。就活中の大学・既卒生の連続講座はもちろん、中・高生対象の夏・冬休み特別企画など、それぞれのペース、学び方に合わせて少人数指導を行っています。小さな頃から成長を見守ってきた会員の子ども達だからこそ、適切な指導や声掛けが可能なのです。

また、発達障がい者就労支援セミナーを月1回開催し、企業や施設、行政、教育、医療関係者を招き連携も図っています。課題はまだまだ沢山ありますが、頑張っていきたいと思います。

北九州LD等発達障害親の会「すばる」

当会は一昨年の 20 周年を期に、北九州LD親の会“すばる”から北九州LD等発達障害親の会“すばる”へと名称を改めました。加えてホームページを立ち上げたこともあり、小学生以下の親が増えてきました。親が横のつながりを求めてきているなと感じます。今後も茶話会を大切にしていきます。

また今秋北九州青年会議所より助成金を頂き、「苦手な事はあるけれど働きたい」というテーマで講演会を行います。発達障害についてあまり知らない若い経営者の方に話を聞いて頂き、子ども達の就労につながるきっかけを作り、交流を継続していける事を願っています。

更に昨年から2年続けて、音楽療法と自己表現の仕方についての講座を開いています。私達の子どもはコミュニケーションの苦手さを持ち、学校や社会で緊張状態が続いています。親も同じです。音楽に耳を傾け、音に合わせて体を動かすことで、心身をリラックスさせます。又自己表現のワークショップでは、身も心もほぐして自分の事を表現する事や、人と関わることの楽しさを体感しています。

これらを通して子ども達の人間関係が少しでも豊かになる様にと願っています。これからもすばるは親と子のニーズにあわせた活動をしていきます。

長崎発達支援親の会「のこのこ」

長崎県では、県の福祉保健部こども政策局こども家庭課の管轄で今年度より家族支援体制整備事業として、ペアレントメンター養成事業に着手します。秋から研修が始まり、年度末までに相談事業を開始する予定で、「のこのこ」はその中でメンターとして協力することになりました。

これまでの取組では、協力依頼を受けて2012 年1月に大阪での全国LD親の会主催、特別支援教育支援員養成講座の家族支援ピアカウンセラーコースに参加しました。その後その学びを日常の会の集まりの中で実践することで会員全体のスキルアップを図っています。1対1の話しの聞き取りとグループでの聞き取りをする中で傾聴の姿勢を体得し、自分が体験してきたこととして相手の話を丸ごと受け止める、という事を全員で繰り返しています。すると「誰にも解ってもらえない」という思いや、「問題を作って大きくしている自分自身の不安」などがすっきりしていくのです。その感覚をみんなで共有することで、私達自身の心が落ち着き笑顔で家族の中に戻って行く事が出来ます。「親が変われば子どもが変わる。母親が笑顔で居る事！」毎月の集まりで私達も元気をもらっています。

本会活動も「のこのこ」ホームページ開設後、順調に会員・賛助会員の入会者数が増加し、事業開始前に認知度も上がっているようです。保護者として社会的な役割を果たすことに会としても責任と期待を感じています。

くまもと発達支援親の会「めだか」

昨年くまもと発達支援親の会「めだか」は、皆様のお力添えで20 周年を迎えました。 活動としては、小学生～青年の各グループの親向けの勉強会や本人向けの交流会（乗馬体験、BBQ、料理等）を行っています。月 1 回の定例会・茶話会には、会員外の方も見学や相談に来られます。また専門家の先生のご指導の下、感覚統合の療育を毎月 1 回程度行っています。今年度は 10 名の子供たちが参加しており、交流会をにぎやかにしてくれています。

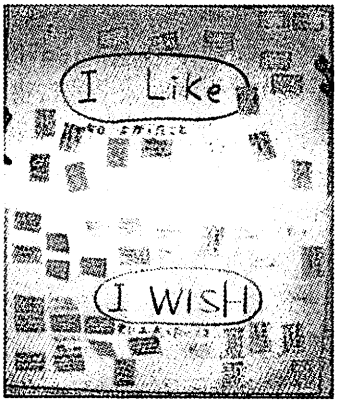
毎年開催してきた外部向け講演会「療育講座」では、昨年は20周年を記念し浜松医科大学児童青年期精神神経講座特任教授杉山登志郎先生をお招きして「発達障害の二次障害とその対応」と題した講演会を行いました。参加者は 350 名を超え、皆さんの関心の高さに驚くと同時に、この様な一般向け講演会の重要性を再確認しました。今年度は 2 月に NHK ハートフォーラムと共催の予定です。

現在の会員は 38 世帯と少ない会員数ではありますが、会員向けの活動も大事にしつつ、発達障害の理解や支援の充実を目指した啓発活動も行っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2012年度　第2回ブロック研修会　(H25. 3. 24)

ワールドカフェの手法を用いた「これからの親の会のあり方について」のフリートーク　(佐賀「元気塾」企画)

佐賀市内の社団法人セルフマネージメントから3名の講師を招き、所属会や年齢、立場に関係なく自由にネットワークを築くことができる『カフェ』のような空間で、7つの会の参加者約20名が5つのグループに別れ、付箋に思いのまま意見を書き出し語り合いました。 今現在、困っていることとして「会員の減少や高齢化」に共感しつつ、それぞれの会の活動の目的やサポーターの活用方法の違いなど、自分たちの会の活動のあり方を再認識できる場にもなりました。



グループを3回入れ替え、制限時間をオーバーしての「カフェタイム」。最後に全体で各グループのファシリテーターがグループの意見をまとめて発表し、付箋を「今日よかったこと」「さらに工夫したいこと」に分類し、今後への思いを確認しました。正解の無いテーマであり、それぞれがそれぞれの「これからの親の会のあり方」のイメージを各会に持ち帰ってくれたのではないでしょうか。　(奥野)

2013年度　第1回ブロック研修会　(H25. 7.7)

「続フリートーク ～就労問題～」　(くまもと「めだか」企画)

今回も日頃の疑問点の解決やアイデアの共有、意見交換が可能なフリートークとしました。またアドバイザーとして菊池市の相談支援事業所「コミュニティはうす明日」より後藤政巳所長に参加して頂きました。

初めに各会から会員が抱えている問題の現状や傾向、具体的な事例などを出し合いました。障害者雇用の場が少ない、就業体験や訓練を受けないまま普通高校、大学を卒業し、社会に出ることを先送りしている層の増加、一般あるいは手帳就労の選択、就職後も仕事そのもの以外の人間関係のトラブルが多い、継続就労の難しさ・・・と、本当にたくさんの問題が上げられました。

次いで支援の選択肢、行政サービス等を参加者で考えましたが、何よりも「本人が身近に相談できる人がいる」「精神面を含めた支援が受けられる」ということがポイントのようです。「在学中の相談相手は学校の先生でしたが、卒業後は誰に相談するのですか？」という問いに、後藤所長より、「たくさんの相談支援事業所ができています。 是非、活用して下さい。」ということばを頂きました。問題が起きる前に足を運び、本人が親以外に頼れる場を確保したいものです。　(梅野)

●ＮＰＯ法人全国ＬＤ親の会　活動報告

4月04日　日本財団2012年度サポートツール・データベース事業報告提出
4月04日　平成26年度予算要望書(厚生労働省、文部科学省)提出
4月05日　日本財団2012年度特別支援員養成事業報告提出
4月11日　「かけはし75号」発行
4月11日　第12回公開フォーラム告知
4月14日　高知県発達障害親の会設立準備会(内藤・井上)
4月22日　和歌山県での教育講演会(「ほっぷ」と共催)(内藤、井上、茶木、小林)
4月25日　理学療法士協会2012年度助成金報告書を提出(空白県対応)
5月11日　全国特別支援教育推進連盟理事会(丹藤)
5月13日　第17回理事会
5月16日　第6回総会議案を各会に発送
5月23・28日　2012年度事業監査・会計監査
5月25日　福島県発達障害親の会設立準備会(東條)
5月30日　法務局に資産変更登記
6月 08日　一般社団法人日本発達障害ネットワーク総会(山岡)
6月08日　NPO法人全国LD親の会第6回総会、研修会、懇親会、第14回評議員会(ドーンセンター)
6月08日　NPO法人全国LD親の会青年の交流会(大阪)
6月09日　NPO法人全国LD親の会第12回公開フォーラム(ドーンセンター)
6月17日　特別支援教育支援員養成講座(神戸)受講生募集
6月20日　第18回理事会
6月20日　平成24年度日本財団事業監査
6月23日　東海・北陸ﾌﾞﾛｯｸ　北陸地区研修会(内藤)
6月28日　東京都に平成24年度事業報告を提出
7月02日　厚生労働省「障害支援区分見直し案に対する意見募集」について、各会に通知
7月04日　法務局に理事変更登記
7月09日　全国特別支援教育推進連盟理事会(多久島)
7月10日　理事長交代挨拶(東條、内藤)
7月18日　役員変更届けを東京都に提出

●第17回理事会報告

出席者:井上育世、多久島睦美、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子
[審議] 1. 第6回総会議案について:平成25年度活動方針及び予算を全員一致で承認した。
2. 第6回通常総会に付議する平成24年度活動報告・決算報告及び平成25年度役員案を全員一致で承認した。
3. JDDネット理事の推薦:　東條裕志を日本発達障害ネットワークの理事候補として推薦することを全員一致で承認した。

●第18回理事会報告

出席者:井上育世、梅野真澄、多久島睦美、東條裕志、内藤孝子
[審議]
1. 理事長、副理事長の互選:　東條裕志が理事長、井上育世と多久島睦美が副理事長となることを全員一致で承認した。
2. 第14回評議員会における審議結果の承認:第14回評議員会における審議結果を審議し、全員一致で承認した。
＜審議内容＞　和歌山県LD等発達障害親の会「ほっぷ」の正会員としての入会